校長室に掲げられた一枚の水彩画とかかわりのある画家について

～　丸山晩霞画伯来校の謎　～

吉池　光則

今夏は、年度当初の臨時休校分の授業時数を確保するため、夏休みも短縮され、恒例の「一人一研究」も必須課題でなくなりました。子ども達の中にはほっとした子どももいるかもしれませんが、「お餅」の無いお正月みたいなもので、「一研究」は学校の夏休みになくてはならない感が強くあります。子ども達にとっても、宿題とはいえ、ついつい一つのことを究明したくなるのは、連続した長い休みゆえに、継続的な観察や、多岐にわたる調査、資料分析、考察などの時間的なゆとりが保障されているということが大きいからでしょう。17 日間と当初予定より少しばかり短くはなったけれども、広く知り深く学ぶチャンスを十分生かして、私はいつもの「一研究」に取組もうと思いました。校長室に掲げられた一枚の水彩画とかかわりのある画家について、これまでに児童や地域の皆様の協力も得ながら調査研究し、判明したことについて報告したいと思います。

校長室にある一枚の絵というのは『冬景色』と題された「篠原新三」(しのはらしんぞう)画伯の水彩画作品です。画面いっぱいに川霧が立ち込めた中に帆船(図 1)が浮かぶ川(おそらく千曲川)を中景として、遠景に対岸の丘陵地帯、手前近景には雪が十数センチほど積もった茅葺の大屋根の民家(図 2)と落葉した柿の木が、住む人の気配を感じさせる、静まり返った冬の景色が描かれている四つ切りサイズの水彩作品です。冬の景色なのに「温かさ」を画面から感じます。「冬」、「雪」と、「白」色のイメージが連想されますが、水彩画ならではの筆の重なりによる透明感が、雪の「白」色に豊かな厚みと色彩を持たせています。

図 1

図 2

この作品の由来は、旧稲荷山小学校卒業生から平成 15 年に寄贈されたと、作品の作者名、画題とともに添付のプレートに記されています。

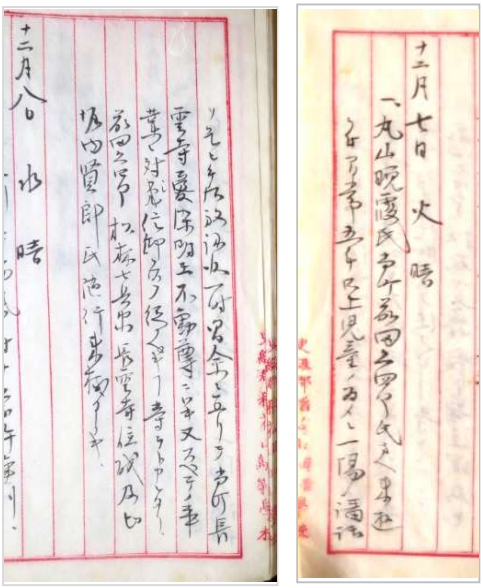
作者である篠原新三画伯は明治・大正・昭和を生きた水彩画家で、昭和 25 年には「日本水彩画会」の名誉会員に推挙されるなど水を溶剤とする絵の具「水彩画」の道を究めた先生です。二十歳(明治 42 年)にして大下藤次郎(おおしたとうじろう)、丸山晩霞(まるやまばんか)らが明治 40 年(1907 年)に設立した日本水彩画会研究所に入り、大正 2 年、石井柏亭(いしいはくてい)、白滝幾之助(しらたきいくのすけ)らと同研究所を改制し、発展させました。日本水彩画会で度々受賞し、昭和 22 年(1947 年)には日展委員をつとめ、地元県内では北信美術会顧問、昭和 31 年には長野県展審査員、昭和 35 年には第一回日本水彩画会長野県展会長を務められました。昭和 41 年(1966 年)、77 歳にて、長野市のご自宅で逝去されました。

「校長室に掲げられた一枚の水彩画とかかわりのある画家」というのは、若き日の篠原新三が入会した「日本水彩画会研究所」の設立に関わった丸山晩霞(慶応 3 年〔1867〕6 月 5 日- 昭和 17 年〔1942〕3 月 4 日）のことです。丸山晩霞は明治 35 年「太平洋画会」創立(1902 年)に加わり、絵画への探求を本格的に始めるとともに、地元では小諸義塾の図画教師となり同義塾の教師であった島崎藤村らとの交友でも知られています。

治田小学校資料室に保存された、本校の前身である稲荷山小学校の「学校日誌」、「明治四十二年度後期一　学校日誌」の十二月七日(火) の項 (図 3)に、「丸山晩霞」の文字を見つけたときは、驚きとともに、此処で一体何があったのだろうという疑問が沸き起こりました。当時にあっても教頭が学校日誌の記録者だと思いますが、「一、丸山晩霞氏　当町前田久四郎氏方へ来遊」の書き出しで、「児童の為と一場講話」「当町長雲寺愛染明王不動尊」云々と記された 7 行ほどの記事からは、経緯不明ながら晩霞が児童向けに特設講話、学校教育に関わったという事実を確認することができました。記事は毛筆での達筆につき詳細については古文書並みに読解が

難解だったため、稲荷山公民館中山館長様に古文書読解の講座に参加されている地域の勉強家、柳澤種男氏をご紹介いただき、早速、お訪ねして当該記事の全文解読をお願いしました。土日を挟んで早速週明けには、解読文を清書して校長室へ届けてくださいました。近世の古文書でのくずし字とは違って却って難しく、同郷で郷土史を研究されている堀内暉巳氏にも協力を仰いで読んでいただいたのが以下の文です。

図３



＜全文＞　　*:原本縦書き、改行ヵ所原文のまま

十二月七日　火　晴

一、丸山晩霞氏当町前田久四郎氏方へ来遊
　　ニ付尋常五年以上児童ノ為メニ一場ノ講話
　*改頁
　　ヲ乞ヒ午後放課後一時間余ニ亘リテ当町長
　　雲寺愛染明王不動尊ニツキ又スベテノ事
　　業ニ対シ信仰厚ク従フベキ丁専ラ申シタリ
　　前田久四郎松林七兵衛長雲寺住職及ビ
　　堀内賢郎氏随行来校アリキ

句読点なく活字に起こしても読解が難しいかもしれませんが、地元の縁故者を訪ねて稲荷山に来訪した晩霞が、学校に招かれ、高学年の子どものためにお話をされたということが分かります。

翻刻すると

丸山晩霞さんが稲荷山町の前田久四郎さんのお宅へ立ち寄られた際に
稲荷山尋常小学校の五年生以上の子ども達のために、お話をしていただくことをお願いしました。
午後、授業を終えた後一時間ほど、稲荷山町の長雲寺に安置されている愛染明王像について、またご本尊の不動明王を含む五大明王全ての仏像の請願について説き、それぞれへの信仰を厚く、教えに従うべきであると、講演を通じてお話されました。前田久四郎さん、松林七兵衛さん、長雲寺住職様と堀内賢郎氏さんが一緒に学校に見えられました。

残念ながら資料室には、来校時の晩霞氏の講話記録は残されていませんし、この日誌が「丸山晩霞来校の事実を示す唯一の資料」ということになります。一時間の話の中身が日誌に記された「愛染明王」他不動尊像に関する話とのことですから、仏教美術や日本美術史的な主旨だったのかもしれません。長雲寺の「愛染明王」は、正徳５年(1715 年)に五大明王とともに、京都醍醐寺から稲荷山に移された木造坐像です。晩霞来校の３年前、明治 39 年に国宝指定(昭和 25 年に文化財保護法の改正に伴い国の重要文化財に再指定)されています。直近の国宝指定意義も含めその経緯や、重要性についての語りが講演本旨と推定されますが、もしかしたら絵画

論等にも触れ、児童の前で水彩画の描画に関わる範を示してくれていたかもしれません。いずれにしても明治42年といえば、今校長室に掲げられている絵の作者である若き篠原信三が水彩画探究の夢を持って、師丸山晩霞と出会った年ということになります。晩霞が研究所を設立し、まさに「水彩画」研究に没頭していた時期でもあるため、益々児童を前にして語った講話内容が気になるところです。

個人名が記載されておりましたので旧稲荷山町のことに詳しい「ヤマサン」(山本様)を訪ね商店街古地図の提供を受けて「前田久四郎」氏、「松林七兵衛」氏、「堀内賢郎」氏の特定を試みたり、本校在籍の同姓児童にも協力を仰ぎ人物の縁故者の捜索を試みたりしました。山本様からは、前田氏は屋号「梅さはや」ことではないかとご教示いただきました。また同姓の児童を通じて、松林氏は松林源之助・松林源九郎が築いた「松林邸」を修復・再生した稲荷山蔵し館に行けばヒントが得られるのではないかとのことでしたが、今日現在も不明のままです。

解読と同時に長野県東御市にある「丸山晩霞記念館」の学芸員佐藤氏にも明治 42 年の晩霞の動向についての関係資料の調査を依頼しました。日記等も残されていないため、基本的な生涯年譜以上のことは分かりませんでした。明治 42 年は北信地域、長野市を中心に水彩画講習会が頻繁に開催され、晩霞も講師としての招聘を受けた中で、立ち寄った場所、経由地の一つが「稲荷山」だったのかもしれません。いずれにしても稲荷山小学校への来校事実は、画集等に付帯の略年譜に記載されるような美術史的な事実ではないとは思いますが、晩霞の学校教育への関与、教育普及活動として重要な業績の一事実だと思います。佐藤氏と講話内容について話を進める中で、「当時において寺は地域の拠り所」であり、晩霞自身は「禅寺で戒名をもらっている」ほど信心深く、仏像などの話をしたことは容易に想像できるとのことでした。東御市にある「法善寺」には仏画等も奉納されているとのことです。また長雲寺近くの、塩崎「長谷寺」にも逗留して絵画制作をした事実もあるとのことでした。したがって講話内容は、端的かつ的確に記録された学校日誌の通り、日本では数体しかない五大明王像の法力に「信仰厚く従うべき」である「ことを専ら」熱く語ったものと推察されます。

私自身いくつかの学校を訪ねた経験の中で、校内の一角や本校のような校長室に掲げられた地元郷土作家等の作品を拝見したことがあります。本校ではとりわけ「水彩アート千曲」の会員の皆様の水彩画作品(現在も13 点展示中)が展示されるなど、児童の情操を育むうえで恵まれた環境であると言えるでしょう。また今回の探究調査を通じて、地域の皆様のご協力、ご助言、ご教示にもあらためて感謝いたします。治田小の母体となる稲荷山小学校への来校から 110 年もの時空を超えて、晩霞の子弟にあたる篠原新三作品が本校にあるということに、深い縁というものをしみじみと感じています。　　(令和２年８月)

原典資料：明治四十二年度学校日誌　稲荷山小学校　(前期、後期一、後期二合本)
参考資料：更埴市の文化財（昭和 61. 3. 31 発行）
中興三００年　稲荷山五大院　長雲寺（2005. 11. 8 発行）
丸山晩霞画集（1977. 11 発行）
千曲市教育委員会文化課　稲荷山宿・蔵し館ホームページ(2020)